



松本大臣、河合スポーツ庁長官らを表敬

ミラノ・コルティナ冬季五輪・パラ日本代表選手団

ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピック冬季競技大会日本代表選手団からスノーボード男子金メダルの木村葵来さん、女子金メダルの村瀬心栞さんが4月24日、文

部科学省で松本洋平文科大臣や河合純一スポーツ庁長官らを表敬訪問した。

今回の五輪では、日本代表選手団は過去最多タイとなる金メダル5個を獲得。総メダル数24、入賞数48はいずれも過去最多で、特にフィギュアスケートのペアでは世界歴代最高点をマークし日本史上初となる金メダルを獲得した。また、個人種目・団体種目の双方で成果をあげ、複数の競技でマルチメダリストが誕生した。国別のメダル獲得総数はスポーツ大國カナダを抜いての5位、そしてアジアでは1位となった。

今回のパラ大会は、冬季パラリンピックが始まって50周年の記念大会。パラ日本代表選手団は、海外開催では過去最多の44名が出場し、銀メダル3個、銅メダル1個を獲得した。表敬では、五輪日本代表選手団の伊東秀仁団長、パラ日本代表選手団の大日方邦子団長が、政府関係機関・団体の支援に謝意を述べ、伊東団長は「5月初めには、競技力向上はもちろんのこと、冬季開催大会のサポートの在り方なども含め反省と検証を行う。9月の愛知・名古屋アジア大会、そして2028のロサンゼルス五輪に向けてしっかりとバトンをつないでいきたい」と語った。

また、松本文科大臣は「皆様の姿は、社会全体を勇気づけるとともに、次代を担う子どもたちにとって自らの可能性を信じ、大きな夢を描くための確かな原動力となります。文部科学省、スポーツ庁としても、皆様が今後さらに高いステージで活躍できるように、引き続き関係機関と連携しながら万全のサポートに努めてまいります。最後に、皆様の今後のますますのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。改めて大きな夢と感動をありがとうございます」と述べ、大会での活躍を労った。

松本大臣(前列中央㊟)はじめ政務三役、河合スポーツ庁長官(同左端)、日本代表選手、文科省、スポーツ庁幹部ら(文科省3階講堂)



記念品を贈呈する村瀬心栞さん㊟と松本大臣